

研究通信 NO.6

村落社会研究会
編 集 部
東京都文京区
東京教育大学
社会学研究室内

仙台大会を前にして

喜多野 清一

村落社会研究会もいよいよ四旬の歳に
は第一回の大会を持つこととなるのだが、
なんとしてもこの準備を有意義な成果
で飾りたいものである。言うまでもなく
それには会員諸兄の熱意ある協力が最も
肝要な条件である。日本社会学会大会に
引続いてのこととて渡れてもらわれると
思ひか、どうか村研の事実上の創立大会
であるこの門出を意義あらしめるため、
劣らぬ協力をお願いしたい。

大会は既報の意趣を中心とする共同研
究会が主な行幸となるが、その他にも色
色な紛議事項がある。それに会員の初顔
合せとして懇親ということも甚だ大切で
ある。そしてすべてにおいて隔意のない
交情と無私公正な科学的精神を基礎にし

て進行されることを願ったのである。
ところがわれわれ当初の世話役としてま
づ希望したいことは、すべてに亘つて諸兄
の積極的な意見を述べたいといふこと
である。今迄も会の運営には五乗る
だけ広く会員の意見を反映させたいと努力
したつもりであるが、主として「研究運営」
に熱心なため——またそうせざるをえない
面もあるのだが——われわれの意図はよく
達せられたとは言へなかつた。たしかに「
通信」の技術も拙がった。しかしわれわれ
の発持は解つて貰へるはずだから、それへ
の反響はもつと強くてよかつたと思つた
のである。しかしこれも「通信」を通路とす
るのみではどうしても同様の、思うよう
に行くものでない。だから今度の大会はそ
ういふ気持ちを直接通はせる機会として、際
つき合せて遠慮なく語り合ふ場にしなけれ
ば直らぬと思つたのである。

その場合、従来のやり方に対して大いに
批判を受けねばならぬ。そして同時に今
後の運営についてさらに大いに意見を述べ
合いたい。こういう議論の要事は目標の一
つは、村落社会研究の科学的水準を一段引
き上げるということにあるだろう。そのた

めに村研は如何に組織され運営されるべきの
を、建設的具体的に話し合ひたい。会の基
本方針はその中から決定されて来るのでは
なければならぬと思う。

これと関連することだが、村落社会研究
のための問題と方法について、この機会に
若くよく話し合ふことな非常に大切だと思
う。別段結論を急ぐ必要はないし、もちろ
ん統一は避けるべきだと思ふが、お互に同
題の所在を知り、誰が何を如何に問題とし
また研究を如何に進めていけるかを知りあ
うことは、村研のごとき会の目的から極めて
大切であるし、会員相互の研究推進のため
にも甚だ有意義であると思ふのである。今
迄も一部の人の研究方針は解つていりし、
また研究上の連絡も行はれていたが、それ
はまだ甚だ不充分で、殊に近頃は研究者の
増加に伴つて様子は一層解らなく成り、連
絡も難しくなつていりるふよに思ふ。そのた
めの研究上の混乱や混乱もよくは感いよう
に思へる。また村落社会の研究は視野も広
いし、その性質も複雑であるから、どうし
ても研究成果に凸凹がある。また解つてい
ぬから手をつけられていない研究面も少
くない。もちろん新しく発展する問題もあ

る。そういう研究フィールドへ研究者がめいめいの用意とやり方で根據地を築き込んでいくという現状から本来のだけ賢明にお互に脱け去るべきだと思ふ。それと会員相互の発意と工夫によって脱却し整理し且つ積極的の発展にまで持つて行くことを期待したのである。村研はそのための取持役であり、場であり、もし本来ればそれを進捗するよう何らかの機能を持てればと思ふ。幸い村研には社会学以外の学問畑からも参加してくれているのだから知識の交流と相互批判とによって村研社会の研究は一層偏らぬいで総合的に向上させてゆくことも出来るだろう。しかし如上の効果をあげるためにはいづれにせよ会員相互が人間的にも学問的にも熟知しあふことが大切であると思ふのである。協会大会はまづそういう好機会としたいのである。会員は大いに発意しあふべきだと思ふのである。そしてそれを引続き「研究連絡」にも延長すべきだと思ふのである。

ところで議題を中心とする共同研究会は、報告担当者の報告を中心とした共同討議の形で行はれるはずである。だから報告

者以外に集るべく多くの方の討議参加を期待する。議題の決定については協賛委員会の協議状況とその都度「研究連絡」に発表してきたのであるが、実はあの発表はあまり以上本来で良かった。委員の一人としてお詫び申さねばならぬ。従つて「連絡」の第五号に掲げた委員報告の中に示されてある最後の要約に違つて、問題点の推移がよく伝達されかけたため、不便を感じられたことと思ふ。一応「郷地委員会」にまで上げられてきたのを、第五号の要約にまで上げたのは、やはりなるべく多数の委員の討議参加を期待するが故なのである。しかし問題の焦点は郷地改革を通しての地主の性格と地位の変化の検討にあるので、それと関連する問題を会員の関心に従つてとり上げて論じて貰うことにしたのである。そこで要約のように拡大して問題を提示したのである。

そこで甚だ勝手ながらこの趣意に御協力願つて、共同討議が成功するよう、データを整理し論点を定めて大いに討議を発展させていたいただきたい。報告担当者はもちろん討議参加者もデータをプリントして会合前日までに提出して下さると、討議の成功に大

いに役立つと思ふ。主として時間都合で報告担当者を個人が制限したが、なるだけ討議には参加してほしいので、予め通告のある方には討議参加の形で時間を割り当てることがしたい。しかし論議徹底のためそういう方もデータのプリント配布を助行してほしいのである。もちろん討議参加には予め通告しなければならぬということではいい。むしろその場の論議の発展は自由でなければならぬ。

しかし結論を急遽に求めることは困難いだろう。それよりも問題の所在を明らかにし、それを根究する途をお互に認めあうことが本来は成功だと思ふ。そして共同研究のための協力態勢の構築が果かれればさらに成功だと思ふ。もとより村落社会研究の課題は今回の大会の議題に限らるべきでないことは言うまでもない。今回はたゞそれを共同研究に臨む課題の一つと考へて採り上げたにすぎない。それにはそれだけの理由があるが、またそれに止まらず、むしろ広汎に存在する課題と、それに取組んでいられる委員の研究の専攻すべきことを知つていくつもりでもある。要は今回の大合がそういう会員相互の研究を知りあひ、学問的交流提議推進の契機として活用されるならば、村落社会研究会の成立は大いに意義づけられること、感じるのである。

仙台大会予報

大会日程（十月十二日（月））

発表会 (3人)
小討論会
昼 憩
発表会 (3人)

9:00
11:00
11:00
12:00
12:00
1:00
1:00
2:30

討論会
協議会
既 録

三、仙台大会の発表者とその題目

（八月廿一日までに到着分）
割山制度の村と農地改革
愛知果八名郡山吉田村の場合

愛知学芸大学 後藤和夫
沖谷 力
岩手県大野村割山制度を中心として
農地改革と村落構造

東北大学 木下 彰
菅野 正
東北大学 中村 治
島田 隆

山村の社会階層
— 栃木県鹿沼地方周辺東林業地帯 —

東北大学 竹内 利美

討論会

千石の討論会に、プリントを提出して討論に参加する人の割当時間を五分といたしたいと思えます。願希望の方はあらかじめ本部へ連絡下さい。

協議会

地方支那の設置や、共同研究をしたらどうの尋という意見が寄せられています。その他今般の村落研究会の運営についても種々意見や希望があることと思えます。協議会のさいに是非忌憚の無い話し合いを御願いたします。

仙台大会共同討議の持ち方について

愛知学芸大学 後藤和夫
仙台大会の共同討議の持ち方については、すでに時勢が迫迫しているので、研究通信

第六号メ初日までに届いた意見を参考とし、宿題委員会が中心となつて早急決定の上、第六号誌上に報知していただくことが必要と思ひます。個人的な意見としては、討議の方法には、(一)宿題委員会又は適當な人から、第五号にのせられた如き懸念を、共通の課題として出してもらう、これを中心に委員会が各自の研究に基づくデータなり意見なりを出し合う方法と、(二)村落構造の規つがの類型における場合を代表する単列的研究を送んで数人に発表させ、これを中心に討議する方法（勿論その場合には発表者側の系統的な選択と討議方向の規制が必要である）との二つを考へ、その何れかを選ばずれば、本年の如きは、前者をえらぶ方が安全であつて共同討議としても効果的であると考へます。しかしすでに第五号誌上で、各自の研究発表の申込が専断されてゐる点を考慮に入れますと、たとへば(一)を午前中に、(二)を午後に行かうというように、両者を併用し、本般の成果をより豊かなものにするのが考へられます。しかしそれは、共同討議及びその他に必要は協議時間と同様から支障があるかも知れませんが、発表者の多少や時間の関係は詳しかりませんが、支障がある場合は、個別的研究の発表は、むしろ社会学大会のプログラムと合流させ、第二日に一堂を渡してしまつて発表することにするのが良いと思ひます。

拡大宿題委員会
に出席して
森住 伍郎

本年度の村若社会共同討論大会で、「農村改革の農村社会に及ぼせる影響」が取上げられたことについては、この問題に関心をもつ者として心から期待をよせざるを得ない。しかも、この討論大会より効果ありしめるため、問題の焦点をどこにしぼったらいいか色々苦心を重ねられていたのを聞きすると、私一社会学については全くの素人ではありますが一この討論会及び研究会の発展を心から願はずにはおられない。

「社会学の観点から農村改革を切る」という場合、どこに焦点をあわせたら討論がより効果的に行はれるか、これが宿題委員会での問題であり、諸先生から色々とお意見をが出された。小生のような社会学について全く未知なる者にとつて敢へられるところ非常に少かつたわけである。これによつて全国の諸先生が、それぞれ実際の研究を基礎にしてこの問題を検討されるならば農村改革の評価に關して一つの斬らしい視野が開かれるのでは

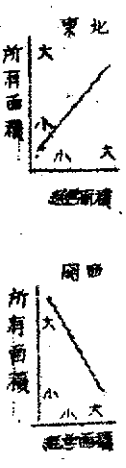
はいかと考へたわけである。

これに關連して思い出されるのは、東大農学部農業経済教室の神谷教授によつて行はれた調査である。これは「農村社会の発展」と題して研究会所から既に出板されているのであるが、今この概略を紹介してみたい。というのは、これが本年度の討論課題に對して一つの問題提起に成るのでないかと考へるからである。

この調査は東北地区四ヶ村、東海地区五ヶ村、関西地区四ヶ村にわたつて行はれたのであるが、今こゝで特に注目する点は、農村改革をめぐる地主の動きを、地主の土地取上げを焦点として分析しておられる点である。

「地主の土地取上げを規定する要因が何か」という点に焦点をあわせることによつて、東北・東海・関西の地帯別比較が可能になつていたのである。

東西の割合上、その結論の二く一部を述べることしか出来ないが、東北の地主の場合には大地主ほど経営面積が大きくはなつていないのに対して、関西の地主は逆に大地主ほど経営面積が小さい。圖に示せば次の様になる。



勿論、これはすべての地主について云へるのではなく、地主にして農業以外の職業をもつ者、山林を所有する地主等、條件の異なるによつて色々の傾向がみられる。(この点については省略する)

何故東北の地主と関西の地主の間にこういう差異が生ずるか、いろいろは條件を分析した結果次の様な結論が下されている。既ち、東北の地主と関西の地主の教育程度を比較してみると、後者の相異がみられるのであつて、東北の地主の内大卒率が殆んどみられないのに対して、関西の地主の場合には大卒率が三割もあり(高専、中卒率についても同様)しかも土地所有面積の多いものほど教育程度が高いのである。既ち関西の地主は土地所有の大きい者ほど教育程度も高く、従つて農業にしがみついて土地を取上げるよりも近辺の都市の銀行や会社に就つたりした方がよかつたのではないか。これに對して東北の地主の場合には教育程度も低く又雇傭の機会もなく農業にしがみつかざるを得なかつたのではないか。そ

して土地所有の力によつて大地主ほど多くの土地を取上げたのではないかと考へられるのである。しからは何故東北の地主が教育程度が低いのであるかといへばそれは大学出や専門学校出の人々を必要とするほどの都市的諸産業が関西ほどにないこと、既ち関西に比して東北の（農業外の）諸産業の発達の違いによるものと考へられるのである。東北に於ては大学を出ても、それを必要とするような産業が「離村」してしまへば別であるが「在村」のまゝでは得られないのに対し関西では大学出に於てそれだけ高い給料が「通勤可能な距離に於て」提供される可能性が多いのである。（事実、地主が農業外産業についている場合、その収入内容が東北と関西では非常に異なり、東北では商店が圧倒的であるのに対し関西では会社員が圧倒的である。）

これを要するに東北に於ては農業外の諸産業の発達が遅れているために、地主も又「小作料収入に依存出来ぬ現在」農業にしがみつかざるを得ず、無理をおかしても土地を取上げているのではないか、これに對して、もし関西ほどに精工

栽培が促進しておれば、それほどの地主的強制は必要されなかつたのではないか、既ち東北の地主が小作の關係（所謂封建的といはれる）と規定しているものは結局、農業村工業の關係によるといふことになつたわけである。（この場合、地主の経営面積「取上げ地を含む」を規定する要因が調査の對象になつていて、取上げ地だけが對象にならないのは「取上げ面積がそれまでの耕作規模によつて影響されるからである。要するに地主は前述の規模までに到らないものは、その規模まで取上げ、既にその規模まで耕作する者は取上げないわけである。」この結論に對しては勿論、いろいろ困難もあるであらう、例へば農民組合の力關係如何等は皆看も又分析しておられる。

「農地改革の農村社会に及ぼせる影響」を調査する場合、農地改革の行はれてはいる過程の中に於ける、地主・自派・小作或いは指導層等の動きを見ることによつて農地改革を社会的に評価することも一つの方法であり、又他方農地改革前の社会構造、と農地改革後の社会構造を比較することも一つの方法であらう。

出来ればこの両者が有機的の關係に於て

討論されれば、これに就したことはない。甚だ生意氣なことを書いてしまつたが、素人の感應として許して貰きたい。

（農林省農業総合研究前々員）

雑報

No.5 既報以後の金貨納入者 八月末日現在

生田清（獨取）

會計中間報告 No.6 既報以後八月一日現在

- (一) 口座預金額八二二再(但し新増得込五〇〇円)
- (二) 本部會計現金九二八円(No.6発行前)
- 但し、No.6発行關係支出 二六五五円
- 現金持込金貨収入 二〇〇円

正誤

既報の阿部政太郎氏の所屬「富山大学」は誤りで「新島大学教育学部」でした。御本人より訂正の御便りいただきました。謹んで訂正いたします。

消息

二宮啓雄氏（もと九大文学部社会学所 研究室所長）は、このたび高知県高知市 北子町一、高知短期大学に勤務されることとなつた。

▽会員の通信▽▽▽

水城隆太郎氏（東京学芸大学）

(1) 村落社会研究会のあり方については、何等批判がましいものは持つていない。今までのやり方は返顧して行くのが私の精一杯だ。

(2) 研究通達五号で舘沢さんがまとめられた通達の内容はまことに結構と思う。内容のしぼり方も多数の方々の今後の協力を思うなら、公約的はこの数い方で妥当とし、委員諸兄の御盡力を忝く思う。

(3) 私の如き後学が、村落調査する場合最初に感ずる事は確實な調査方法の取手だ。勿論方法は調査地域や調査主題によって異なる事は当然であるが、社会調査の領域において最近めざましく変遷をとじている方法（狭義の）それ自体につけての知識が果していかざる程度程度実利用でできるかを検証し、且つ主観との関連において、新たに考察する事も必要と思ふ。勿論「村研」の今後の討議の過程に、これは十分織り込まれていたと思ふが、調査のテフニツ

（四〇）

クー *Marshall* にあると云い得る面もすくなくないが——にもウエイトを置いているのとはいう事はつきり打ち出されるように計らって買えば、これによつて得る所の多い人もあると思う。これは私の如く農村プロパーを研究主題とするのではなく、社会調査における *typical rural* なものを、どのように具体的に考えて行つたら良いかの、へそ曲りの立場から、村落をフィールドとして、二三年この方やって来た者の牌見がとも思ふが。

(4) 有笑先生の「小沢別度」を最近読みかへして強く感ずることは、「村研」の当初からの動きに明らか如く、現今の村落の状況と先生の扱われた時期との「大穴的ズレ」などの点あるうかと云ふ事だ。この点については先生の近時の業績が著々我々の愛を奪いて下さつてはいるが、この点は十分考慮しなげればならぬとしても、あのようにはつきりした性格として村落社会の構造が打出されて来はりところも時にあるかと思ふ。これは地域差、厂家的時期差と共に、扱い方——再びテフニツにも関係するが——の差にもよる

かと思ふ。このためには、打合せの初めの頃にとれたかの意見としてあつたかも知れぬが、米半段以降に、無理のないグループのつくり方をして、共同調査をやつて見て、諸先生方の考えておられる方法をいろいろ動来するとはつきりするかに思ふ。私は *Parsons's General Theory of Action* を読み感心したが、共同作業はむづかしい事ながら、やはり必要と思ふ。今日の如く村落研究も進み、諸先生の研究方法が少しづつ違つており、結論尤の導き方の差が目立つて来ると（差があつても良いが）後学のもの大別に切実な同感意識を持つようにならざる事を案じて羨ましい。

(5) 私は二、三年前から伊豆の村々を調査しているが、そこは文化形態が均一でなく、変化があり、文化形態の出来方をあつげけるに適宜な土地なので、西庄、南豆、南賀、東賀を区別してこの向題を考察し、いわば制度的なものと思つて、そのとの関連を疎付けないと思つて、調査の便宜があれは悉知したい。

左記の方々からその水が水運達で御知らせいたしたので、編集録切に間にありませんでしたので、追加として掲載します。御詠承下さい。

農地改革と村落構造——未墾地買収の問題を中心として——

宮崎大学 高倉又二

題未定

(但し、近畿型の水田村における農地改革による水かさの階層構造の変化を中心として、宿題「ミ」に近く近レテマことありあつた)

大阪市立大学 山本登

群馬の一山村における同族と農地改革

群馬大学 小池善吉

農地改革と同族同構族

東京大学 塚本哲人